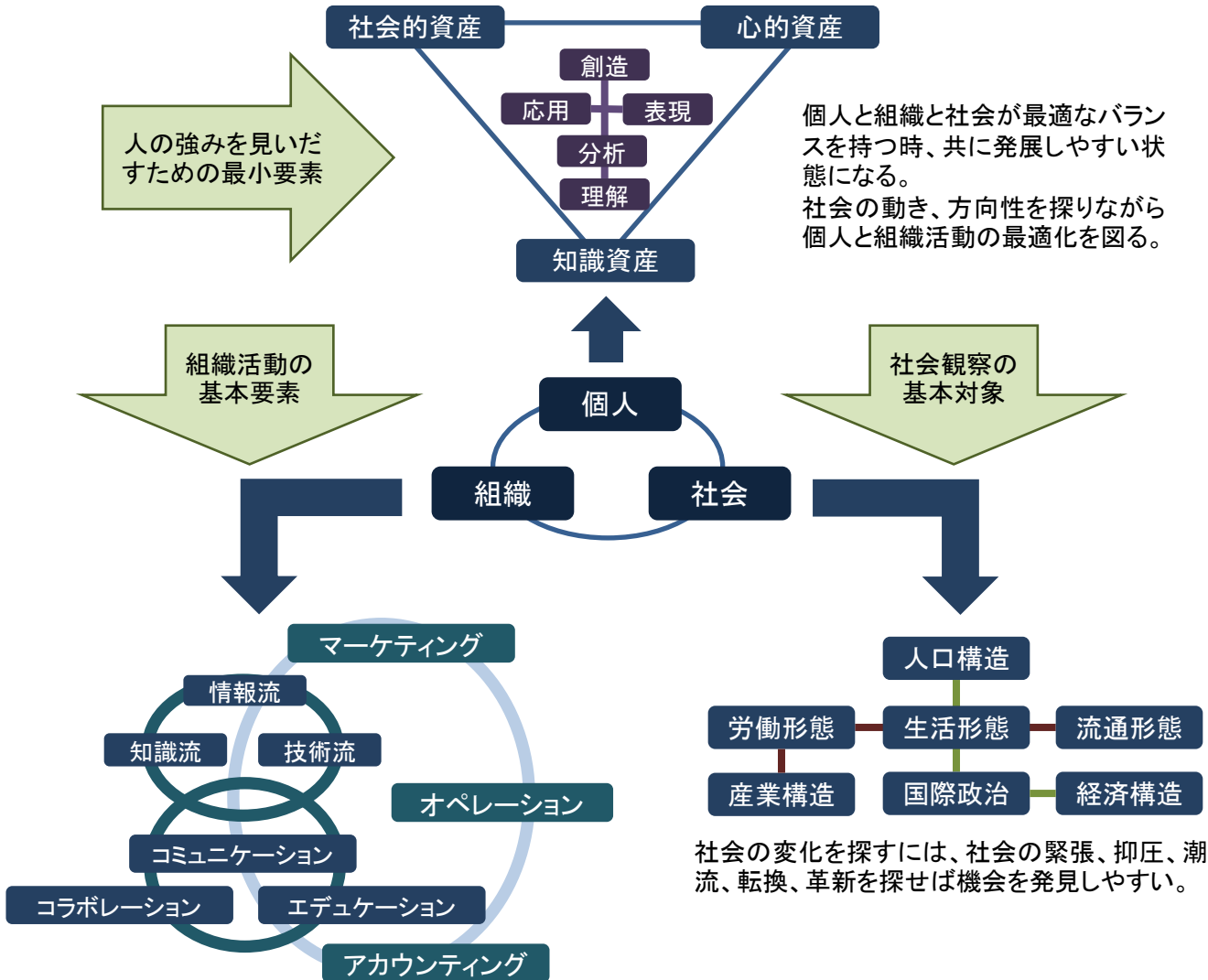


# 個人と組織と社会のバランス

個人、組織、社会を知るための最低必要量の要素を挙げた。それぞれを知るために外してはならない項目である。細かいところまで見ても完全につかめないが、かなりの精度で状況と方向性はつかめる。目的は、活動の最大効果を発揮するためである。



最小資源と、最小時間、最小のマンパワーで、最大の成果を発揮するには、まず、知ることである。正確な「的」と適切な「道具」を手にするところから始まる。

何を、どのようにすれば良いかを検討する。

◆人は役割を持ち、責任を負っている。組織と社会で、位置づけされている。これらを知覚しているはずである。――如何に成長させるか、成長するか。――成果をあげていくか。

◆組織は、組織内で機能するエンジンを持つ。社会の中にあつて、機能する。――組織を一つにまとめる情報流、知識流、技術流がある。組織動脈である。――組織基盤になるコミュニケーション等の3つがある。これらのレベルによって組織が発揮する機能が決まる。――オペレーション等は外に向けての行動である。最適さが要求される。

◆人も組織も社会の中で生きる。最適な、最高の活動をするために、社会の状態と変化を把握する必要がある。

人、組織、社会を把握し、社会に革新を促すために、最適活動を試みる。